

三月天文方吉田四郎三郎補御用として上京五月  
七月家門及協力藤村助大外郎後藤源清八月借所御用の手  
紅毛談 七月家門及協力藤村助大外郎後藤源清八月借所御用の手  
動植博物十譜 予賀深内撰

一七六五 成两年三同  
田村元長中川淳庵宇田川玄隨寺薬品會之間日録を作  
奥平侯醫前野良洋曾て和蘭書紙片を見て其文字を讀まんとの志を起し青木文藏に就き

其讀法訓法を授く時、年四十四歳  
其讀法訓法を授く時、年四十四歳  
長澤名実有子其姓山口氏の名は長澤五郎と稱す其子○江島如春前野蘭化傳り其學を先主回志之日、與余共命と爲りて四十七  
年四月に歿す其子長澤五郎と稱す其孫○江島如春前野蘭化傳り其學を先主回志之日、與余共命と爲りて四十七  
年四月に歿す其子長澤五郎と稱す其孫○江島如春前野蘭化傳り其學を先主回志之日、與余共命と爲りて四十七

同丁年四同  
二月青木文藏に書物奉行を補うに俸百石加賜  
和蘭甲必丹例參前野良洋抄田玄白註二人其客館に至り大通詞西善三郎に就き疑議質問  
水戸藩士長久保源立兵衛長崎に於て和蘭館に於て始て昇降園前を是たりと其行役日記を記す

一七六八 子戊年五同  
三月和蘭甲必丹例參前野杉田二人其客館に至り外科醫パブルの判給の手術を見り  
長崎大通詞西善三郎と蘭人トリて其所撰手書に訓評を施し後學に便益せんとい對譯の者  
蘭日對譯手書此書を最と下野蘭化の長崎進學の法其未定稿を梓澤リ志と未通リ遊して蘭語研究の材料にせりと

十月書物奉行青木文藏 甘藷先法是甚佳也... 小濱藩醫杉田玄白 家二嗣子濱野... 十二月天文方吉田四郎三郎 修正寶曆甲戌曆十卷...

京都官醫山脇玄侃 門四世御醫致法眼光是和蘭醫療... 元凱其傳士承什是年利給編者... 七月前野良澤 藩侯より公暇を賜り長崎に往り蘭語を習得す...

二月薩摩侯島津重豪 幕府允許を得て長崎に至り和蘭の船内を親檢し其結構精巧を... 三月五日前野良澤 杉田玄白中川淳庵三人上相會し和蘭人身内京書翻譯の稿を起す... 五月平賀源内 天草島の陶土を携り外國輸出... 十二月阿蘭陀地圖説 本木長永譯 和蘭地圖の用法ヲ知ラント欲スル...

安永

前野良澤再度長崎ノ往ク然共得益不多幸コ西氏遺著アリクテ評書未定譯稿ヲ撰テ携歸リ...

正月萬國夢物語 西村達里所著...

萬國圖説 平澤旭山所撰...

八月解體新書刊行 即和蘭内景圖説ノ譯本也...

八月天地二球用法 本木良永譯...

本村四郎 醫學博士...

本村四郎 醫學博士...

本村四郎 醫學博士...

本村四郎 醫學博士...

本村四郎 醫學博士...

三月日本輿地路程全圖 水戶士長久保赤水所撰...

三月和蘭甲必丹創參桂川甫周中川淳庵共客館ニ至リ...

十一月日月圭和解 和蘭浦侯...

十二月天學指南 西村達里撰...

杉田玄白其家阿蘭陀流外科ニ改メ...

藥品甘アレルナ書上...

長崎通詞吉雄幸作 今村大十郎評...

仙臺士林子平嘗て心を海外に注ぎ長崎の視察せし四月江戸に出づ遂に西行す清高蘭人より世界の政俗事態を聞知し長崎の必須を感じ海國兵談の稿を起すといふ小説  
 飛騨野郎 飛騨野郎の物語 飛騨野郎の物語 飛騨野郎の物語 飛騨野郎の物語  
 網譯運動法 網譯運動法の物語 網譯運動法の物語 網譯運動法の物語 網譯運動法の物語  
 本木仁大夫長水為小通詞 本木仁大夫長水為小通詞の物語 本木仁大夫長水為小通詞の物語  
 通詞志茶氏八世相傳之忠次郎志権子 通詞志茶氏八世相傳之忠次郎志権子の物語  
 此年八月十八日其戰之辨し本木蘭亭子就て天學を專修す

三月田村侯醫師連部清庵上子亮兼門人大槻玄澤二人を江戸に遊學せし其の事  
 長崎大通詞古雄幸作 長崎大通詞古雄幸作の物語  
 長崎大通詞古雄幸作 長崎大通詞古雄幸作の物語  
 長崎大通詞古雄幸作 長崎大通詞古雄幸作の物語  
 長崎大通詞古雄幸作 長崎大通詞古雄幸作の物語

二月家治將軍より前野良澤に命ありて西洋畫贊料を翻譯せし其の事  
 薩摩藩新々明時館と興し天文堂之禁書層數の學を講習す長崎通事松村元綱を顧問とし  
 津山藩醫守田川玄應と出始り蘭説を眞理と識り桂川甫周に就き其教を受く時年二十五才  
 南周勅し和蘭内科醫方を修めし其の事  
 高達藩士坂本孫八と蘭國を巡遊し砲術を研究す其の事  
 著し大に其利用を説く  
 十二月年賀源内怒り事ありて學徒久五郎を打柳し其の事  
 杉田玄白其墓に銘を刻し其の事

九月小野蘭山江都都に於て大和奉年の諸遊を聞き三年既了前山を離れ其の事  
 大槻玄澤より更し前野蘭化に就き蘭語の語法譯法を受け早く既て政業翻譯の志ありしが  
 是年六種を還て其譯稿を起す一冊の稿を起す其の事

和蘭學之第一書 和蘭學之第一書 和蘭學之第一書 和蘭學之第一書  
 和蘭學之第一書 和蘭學之第一書 和蘭學之第一書 和蘭學之第一書  
 和蘭學之第一書 和蘭學之第一書 和蘭學之第一書 和蘭學之第一書

通詞志茶氏八世相傳之忠次郎志権子  
 此年八月十八日其戰之辨し本木蘭亭子就て天學を專修す

長崎大通詞古雄幸作  
 長崎大通詞古雄幸作の物語

二月家治將軍より前野良澤に命ありて西洋畫贊料を翻譯せし其の事  
 薩摩藩新々明時館と興し天文堂之禁書層數の學を講習す長崎通事松村元綱を顧問とし

九月小野蘭山江都都に於て大和奉年の諸遊を聞き三年既了前山を離れ其の事  
 大槻玄澤より更し前野蘭化に就き蘭語の語法譯法を受け早く既て政業翻譯の志ありしが

和蘭學之第一書  
 和蘭學之第一書

癸卯年元明天 一七八一		天明年元明 一七八二	
正月外科小備 宮川春暉撰	五月江戸天文堂牛込より淺草へ遷す	正月赤嶽交風説考 仙臺富士工藤平助撰	五月江戸天文堂牛込より淺草へ遷す
算法學海 坂新撰著	和蘭船圖説 仙臺林子平述	七月萬國山海經 京邦人大江文政撰	和蘭船圖説 仙臺林子平述
高橋作左衛門 坂新撰著	平戸松浦清淵 長崎巡視	九月蘭學字階梯 大觀玄澤撰	平戸松浦清淵 長崎巡視
高橋作左衛門 坂新撰著	和蘭船圖説 仙臺林子平述	十一月求力論 長崎人志地忠雄所評	和蘭船圖説 仙臺林子平述

癸卯年元明天 一七八一		天明年元明 一七八二	
正月外科小備 宮川春暉撰	五月江戸天文堂牛込より淺草へ遷す	正月赤嶽交風説考 仙臺富士工藤平助撰	五月江戸天文堂牛込より淺草へ遷す
算法學海 坂新撰著	和蘭船圖説 仙臺林子平述	七月萬國山海經 京邦人大江文政撰	和蘭船圖説 仙臺林子平述
高橋作左衛門 坂新撰著	平戸松浦清淵 長崎巡視	九月蘭學字階梯 大觀玄澤撰	平戸松浦清淵 長崎巡視
高橋作左衛門 坂新撰著	和蘭船圖説 仙臺林子平述	十一月求力論 長崎人志地忠雄所評	和蘭船圖説 仙臺林子平述

天明

一七

十一月求力論 長崎人志地忠雄所評 吾吾美國人のハント、生物學字の力學也、  
出羽人佐藤信淵 江戸より出で宇田川抱園の門に入り、  
美濃人野村立齋、蘭學字階梯著者名古彦、  
尾州村、高橋侯の臣、  
此年二場補十

正月赤嶽交風説考 仙臺富士工藤平助撰  
和蘭船圖説 仙臺林子平述  
七月萬國山海經 京邦人大江文政撰  
九月蘭學字階梯 大觀玄澤撰  
十一月求力論 長崎人志地忠雄所評

五月江戸天文堂牛込より淺草へ遷す  
和蘭船圖説 仙臺林子平述  
平戸松浦清淵 長崎巡視  
和蘭船圖説 仙臺林子平述  
平戸松浦清淵 長崎巡視

算法學海 坂新撰著  
高橋作左衛門 坂新撰著  
高橋作左衛門 坂新撰著  
算法學海 坂新撰著  
高橋作左衛門 坂新撰著

一七

八月和蘭譯筌 前野良澤撰 本編未編附錄 英文專法  
自叙 大政文苑の著者「本著者」義理のレレテ蓋シレバ成ルル其功也...

十月大槻玄澤 瓜志之邊 長崎ヲ遊學シ 本末吉雄諸譯司ヲ請益ナリ 其來往大坂ヲ木村要齋  
主訪以 其 鳴 之 以 一 角 養 考 之 件 也 明年十月...

幕府侍醫法眼 桂川甫 其職之罷シ 乃家考一 蘭書翻譯ヲ從事シ 朱覽異言ノ原因ヲ攪リ 其  
圖說ヲ再述シ 以萬國圖說ト名フ

五月海國兵談 林子平撰 和蘭ノ十五國ニ至リテ 水陸戰法ヲ詳述ス...

次月打木侯子 蘭文一書ヲ長崎蘭館長デニユルコトヲ贈リ 大槻玄澤ノ厚遇ニ謝シ 其文ニ其詳...

京師醫人小石元俊 大坂ニ遊學シ 江戸ニ來リ 教ヲ杉田玄白ト受け 大槻玄澤ト同盟ス

四月德川十一代家齊ヲ將軍宣下 松平定信 越中百老中ト為リ 政事補佐ノ任を受ク 二十餘年  
來ノ弊政ヲ革新シ 國態大ニ揚シ 定信小字九郎 父定長...

四月火器發法傳 志筑忠次郎所譯 砲地砲連 砲術傳 砲術傳...

八月西洋錢譜 打木侯昌細撰 天下大國ノ錢 皆ハ銅トシテ...

九月紅毛雜誌 森島中良撰 中良名蘭名目ヲ撰テ 其詳...

西村達里 死無子 門人養谷木沖嗣

三月蘭學階梯刊行 和蘭文字考 和蘭文法考 和蘭文法考...

泰西輿地圖說 打木龍橋撰 歐洲十三國地圖 歐洲十三國地圖...

五月桂川甫 周池原雲洞山崎宗運 湯川安棹 等物品陳列ニ 江戸醫學館ニ開ク

十一月蘭說辨惑 和蘭文字考 和蘭文法考 和蘭文法考...

三國通覽圖說 天覽ヲ供リ 御書所ノ一部ト上納ス